

## 2. 評価結果（詳細）

主任調査員 石松成子 / 同行調査員 新納祐子

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念はあり、運営規定に運営方針は明記しているが、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念は作られていない。	○	法人の理念を尊重しつつ、地域密着型サービスとして、事業所独自の理念を作り上げることが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念や運営規程の運営方針を基に、毎日のケアを実践しているが、事業所独自の理念を決めていないため、理念を共有できていない。	○	事業所としての理念を作り、文書等に明記し、理念の共有と実践に向けて取り組むことが望まれる。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人主催の夏祭りは地域住民に参加を呼びかけ入居者との交流を図っている。職員の家族やケアハウスの入居者が訪問するなど、地元の人々との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について、職員へ評価の意義について説明が充分ではなく、全員で取り組めていない。	○	管理者は評価の意義や活かし方について、職員にわかりやすく伝え、職員と話し合い全員で自己評価に取り組み、具体的な改善に前向きに取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催していない。	○	利用者・家族・地域住民代表・行政の担当者等幅広く参加を呼びかけ、意見をサービスに活かす工夫が求められる。

賀寿園グループホーム愛

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に事業者から報告や相談など積極的な働きかけはできていない。	○	ホームの考え方や実態を機会を捉え報告したり、問題解決に向けて相談・協議するなど、市担当者との関係作りに積極的に努め、協力関係を築くことが望まれる。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には声をかけ入居者の状況等話している。又ホーム便りを毎月発行し、入居者の日頃の暮らし振りなどわかりやすく報告している。病院受診の報告も通院記録を作成し随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、ホーム便り発送時にご意見用紙を同封し意見を聞くよう工夫している。家族会を年2回開催し、その時面談の機会を設け意見を聞き、運営に反映させるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者は職員と入居者が馴染みの関係を保つ事の重要性を認識し、職員の異動や離職によるダメージを防ぐよう配慮し、新しい職員は馴れるまで日勤をするなど引継ぎの工夫をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員育成の重要性を認識し、職員各自に応じた研修の機会を確保して職員会議で研修報告を行い、全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は地域のみならず全国、全県の福祉のリーダーであり、サービスの質向上に取り組んでいる。管理者は連絡協議会に参加しており、地域の同業者と交流する機会を持っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に、本人や家族に見学してもらったり、入居者と顔なじみになるよう訪問したりしている。主治医やケアマネージャーから話を聞いて入居者を理解するよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から、生活の技や歴史・文化について教えてもらう事が多く、そういう支えあう機会や場面を多く作るよう声かけや工夫を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、思いや意向を把握している。言葉に表せない方は行動や表情から汲み取るようにしている。夜勤時などゆっくり話すよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望を聞き、毎日の記録や職員の気づきを参考に、月2回の職員会議や担当者会議で話し合っって介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間にそってモニタリングを実施し見直しを行っている。状態変化がある場合はその都度見直している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参・病院受診の送迎や介助及び外泊支援など柔軟に対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの馴染みのかかりつけ医の受診を支援している。通院介助のときは通院記録を記入し医師や家族への連絡や報告を確実に行っている。往診をしてもらうなど病状に応じ柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に医療連携体制について説明している。重度化や終末期についてホームとしての対応については関係者同士の共有が充分ではない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について早い時期から家族等や主治医等関係者で話し合い、全員で対応方針の共有を図ることが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の誇りを尊重している。職員はプライバシーの確保について認識しており、利用者の尊厳や権利を尊重した言葉掛けや対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは、決めているが、起床、食事、就寝時間など入居者一人ひとりのペースで支援している。散歩やレクリエーションも入居者の状態や思いに配慮しながら対応している。		

賀寿園グループホーム愛

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が入居者の希望を聞きながら話し合っている。米ときや調理の下ごしらえ、片付けなど出来る事は一緒にしながら、さりげなく介助し、会話しながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則は一日おきとなってはいるが、希望があればいつでも入浴できる。体調の都合で入浴できない方は清拭を行い清潔保持に努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日のラジオ体操やレクリエーション等実施している。茶碗洗いや洗濯物干し・洗濯物たたみ、カーテンの開け閉めなど役割を楽しみごとにしてもらえるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物や季節の花見・演劇鑑賞、ドライブなど外出の機会を作っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び管理者・職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出の傾向があったら後をついていくなど対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回法人全体の防災訓練後に、ホームで夜間設定の避難訓練を実施している。地域の消防団の協力もある。災害に備え備品や食料や飲料水を備蓄している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量についてチェックし記録を行っている。献立は法人施設の栄養士に栄養バランスなど助言して貰っている。入居者の状況に合わせ、お粥や刻みなど食べやすく工夫して摂取量を確保している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は格子戸で、畳コーナーにはコタツなどが置かれ家庭的な雰囲気である。日差しはカーテンで調整し、テレビや音楽の音にも配慮している。ソファやテーブルなどの配置も、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたテレビや椅子など配置し、花鉢やぬいぐるみ等を飾り、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNET に公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。